

諸先輩に助けられて

平成 15～16 年度会長
会長当時・北海道野幌高等学校長
現在、北海道室蘭栄高等学校長
佐々木 美喜雄

高英研の事務局に携わり、一番の思い出は「よくまあ先輩たちが見捨てずに助けてくれたものだ。」という一文に尽きる。

平成 8 年 4 月に大麻高校に教頭として着任した時に、中川文夫校長より「高英研、高教研、中高英研、コミュニケーション学会、全英研等の事務局を引き受けることになった。協力するので頑張ってもらいたい。」と言われた。今だから話せるのだが、当時は高教研を除いて他にそのような研究会が存在することすら知らなかった。気楽に「はい。」と返事をしたが、内情を知れば知るほど、背中を冷たいものが流れていった。国際理解教育に熱心であった梅津財団の後援が無くなり、台所が火の車であった。まるで糸の切れた凧のごとく、行き先知れずの状況で、高英研は予算編成どころか事業計画も立てられなかった。

「英語弁論大会の優勝、準優勝に副賞として海外視察をさせ、その引率者は高校の教師を指名する。その 3 名の視察及び引率費用は高英研で負担する。」が慣例と知りストレスは最高度に達した。その費用約 120 万・・頭の中を壱万円札が舞っていた。当時、寄付金を募ることは禁止されていなかったのだから、翌日から中川校長と二人で炎天下、汗を拭きながら様々な団体や企業を回り歩いた。その時の中川校長の努力と実行力には、今でも敬服し感謝しております。

当時の校長先生や校長 OB の方々には、現在の唯我独尊的(?)な校長とは異なり後輩に暖かい方々が多かった。札幌稲雲高校長を退職され英語検定協会の事務局に勤められていた山口茂先生には特に気にかけていただき、お会いする度に「予算は大丈夫か？」と声をかけていただいた。市川元則校長(札幌月寒)、山本廣校長(札幌丘珠)、内田政明校長(札幌白陵)、藤原忠校長(函館中部)、久富和栄校長(沼田)の各先輩には筆舌に尽くしがたい御支援をいただいた。また大麻高校の 2 年目は寄付金を募る企業、団体も減り前年の倍近く歩かなければならなかったが、富田國男校長先生は先頭に立ち企業訪問をしていただいた。

今、しみじみと述懐するなら諸先輩の御協力、御支援が無ければ何も出来なかった。「感謝」の言葉以外、思いつかない自分に腑甲斐なさを感じますが、諸先輩の皆様「本当に有難うございました。」

4 年後に野幌高校の校長として赴任し高英研の会長を拝命したときは、「もう、勘弁してくれ！」の心境であったが樋口暉純校長(札幌東陵)の全面的な協力をいただき何とか事業を完遂することができた。また江別市教育委員会の高橋侃教育長より「高英研の研究会を中学校の教師に聴講させ、勉強の機会を与えて欲しい。」との申し出があり、市の施設を無料で使用させていただいた。高英研が財政難の陥っていることは、会合の度に話していたので助け船を出してくれたのだ。

私の高英研についての感想は、諸先輩や各教育機関の方々に対する感謝の言葉以外は思い浮かばない。(平成 19 年 6 月)